（別紙２）

審査結果の要旨

氏名　　森下　信子

本論文は，2 つの「サラーマーンとイブサールの物語」の写本を資料として，文献学的，思想史的研究を目指すものである。

中世以来，イスラーム世界においては，サラーマーンとイブサールという 2 人の人物を主題とする数多くの物語が人口に膾炙してきた。著者は，そのなかで，イスラーム思想史上とくに重要だと考えられる 2 つの著作を取り上げている。

その一つは，医者としてまた翻訳家として有名なフナイン・ブン・イスハーク（873 年没）に帰せられた『サラーマーンとイブサールの物語』である。著者は，現存する写本を収集し，これらを比較検討することを通じてこれを校訂・訳出した上で，その成立過程について幾つかの重要な結論を導き出している。

すなわち，著者は，この物語のモチーフは，イスラーム期以前のアラブの故事に遡ること，そしてこの前提に立てば，従来研究者の間で広く受容されてきた「アブサール」という読み方は「イブサール」に改められるべきであることを論証している。さらに著者は，現存する写本の来歴の推定や，それらの写本の成立に関わった人物と物語自体の詳細な分析を通じて，この物語がイスラーム期以前の作品の翻案だったのかそれともイスラーム期になって書かれたものなのかについて考察を重ね，またこの物語の真の作者の人物像の復元を試みている。

著者が取り上げたもう一つの「サラマーンとイブサールの物語」は，哲学者イブン・スィーナー（1037 年）による寓意物語である。著者は，未刊行で，主として他の著作における引用に基づいて研究されてきたこの物語の本文の写本を収集し，またイブン・スィーナーの他の著作をも照合しながら，この物語を校訂・訳出している。そして，その思想内容や，テキストの伝達にも考察を進めている。

最後に論文の末尾において著者は，「サラマーンとイブサール物語」に影響を受けたイスラーム世界の多数の著作をリストアップして，それらに簡単な解説を施している。

本論文の価値は，第 1 に，難渋な写本を校訂した点にある。たしかに，アラビア語の翻字や訳語が一貫していないこと，正則のアラビア語文法では説明が困難な箇所で根拠が薄弱な読み方をしている部分も見受けられる。また，思想内容の分析という点では充分に考察が深められていない箇所や紋切り型の評価も皆無ではない。しかし，著者の，世界各地に写本を探求する熱心さや，豊富なアラビア語の知識によってテキストの一字一句の確定を試みる態度は特筆に値し，これらの欠点は些少のものである。したがって本審査委員会は，本論文が博士（文学）の学位に値するものと認定する。